

## 第3回「協働のまちづくり部会」会議録

日時：平成17年1月8日（土）

午前10時～午後0時15分

場所：市役所3階301議室

### 出席委員

- 1号委員 田中喜佳、柳田吉範
- 2号委員（各種団体） 芝本清一、溝端繁
- 2号委員（公募） 木之下純子、白木直子、村上いづ美、横谷卓也
- 3号委員 久隆浩（部会長）、田中晃代（副部会長）
- 4号委員 藤進

### 欠席委員

- 2号委員（各種団体） 常石宜子
- 2号委員（公募） 太田寿忠
- 4号委員 神田経治

### 事務局

- 企画総務部企画経営室企画グループ長：土井信雄
- 企画総務部企画経営室企画グループ主幹：中野隆夫
- 企画総務部企画経営室企画グループ主査：小川祥
- 企画総務部企画経営室企画グループ主査：山口麻子
- 企画総務部企画経営室企画グループ：小池悟史

(株)日本総合研究所

松岡敦子

### 【土井企画グループ長】

まだ、お2人ほどお見えでないのですけれども、時間が過ぎましたので、会議の方を始めさせていただきます。皆さん、明けましておめでとうございます。昨年に引き続きまして、今年もどうぞよろしくお願いたします。また、年明けのお忙しい時期でございますが、ご出席いただきましてありがとうございます。それでは、ただ今から、第3回協働のまちづくり部会を開催いたします。まず、本日の出席状況でございますが、神

田委員が欠席ということで、ご連絡いただいております。

続きまして、資料の確認でございます。郵送にて、部会別意見集約を送付させていただいております。それから、本日、お手元に会議次第ということで、配布させていただいております。それでは、久部会長、よろしくお願いいたします。

#### 【久部会長】

どうもおはようございます。それでは、今日も活発な議論をお願いしたいと思います。お手元の次第に、今日、議事として、基本構想についてということでございますけれども、前回までの議論を踏まえまして、3部会の部会長、副部会長が集まりまして、打合せをしました。その結果が、今、皆さんに、A3の横長の方で、お渡しをしているものなのですけれども、これは、それぞれの部会の意見の集約という形で、羅列をしているだけでございます。今日もこれの延長上の議論をさせていただきますけれども、それを踏まえまして、次回の4回目の審議会に、修正案をお出ししようということになっております。その中で、皆様方の今までのご意見がどれだけ反映されているかということをチェックしていただきたいなと思っております。前回までの議論を踏まえまして、正副部会長で議論をしていたのですけれども、ひょっとすると、例えば、3章と4章の棲み分けがうまくいっていない部分があるのではないかとということもあって、章立てそのものも少し変更させていただくかもしれません。出来るだけ皆さん方のご意見を踏まえまして、よりわかりやすく、内容も充実したものにしていきたいということで、準備をしておりますので、ひょっとすると、今、お渡しをしている案の構成自体が変化をすることもあるということを少し念頭に置いていただきたいなと思っております。

それでは、今から具体的な議論に入って参りたいと思っておりますけれども、うちの部会は、前回までも、通してお話をさせてもらったのですけれども、今回、お手元に資料がございますが、他の部会のご意見もございます。これも見ながら、例えば、「他の部会に出ているこの議論に対して、我々の部会ではこう考えているのだ」というような、他の部会の意見に対してのご意見でも結構ですし、あるいは、他の部会の議論の内容を、要旨だけ取ってきていますので、「もう少し説明してください」というようなお話でも結構です。あるいは、他の部会の意見に触発されて、「もう少しこの辺りを言っておかなければいけない」という思いが出てこられた方もおられると思っておりますので、その辺りも踏まえまして、再度、1章、2章、3章、4章の内容について、議論をさせていただきたいというのが今日の主旨でございます。

それで、どういたしましょう。1章ずつ行きましょうか。1章ということで、他の部会でも、うちの部会は今のところ、1つしか出ていないということだったので、この、総合計画の意味を書いている部分でございますが、他の部会、特に、元気なまちづくり部会では、沢山議論がされているような雰囲気、この整理表から伝わってきますけれども、何か、この1章に関しまして、皆さんの方から、ご意見とかご質問、ござ

いますでしょうか。

他の部会のご意見もですけれども、この総合計画の機能とか、あるいは、総合計画策定の狙い、あるいは、構成と期間という、非常に基本的な総合計画の性格を書いている部分でございますけれども。

よろしいですか。また、振り返りということも踏まえて、お話をさせていただくということで、それでは2章ですね。総合計画策定の背景、社会的な状況、あるいは、河内長野市の歴史、資源を書いている部分でございますが、その辺りで何かご意見があればということですので、いかがでしょうか。

他の部会の意見に関しまして、「ちょっとこれはよくわからない」という話が出てくるのですけれども。あるいは、河内長野のこれからの10年を考えていくわけですけれども、「こういう河内長野の特徴とか課題は落とさないでほしい」というような、そういうご意見でも構いませんけれども。大体よろしゅうございますか。

それでは、3章ですけれども、一番大きな基本理念、それから、まちづくりの目標、それから、基本フレームということで、人口と都市構造の話が書いてございますけれども、今、お手元の部会別の要約では、3章と4章と一緒になっていますけれども、大きな方針の辺りはどうでしょうか。

再度確認をさせていただきたいのは人口のところですね。今の案、骨子で言うと、10ページのところなのですけれども、人口の目標は、今のところ、現在の人口12万人を維持することを目標とするということございまして、今までの計画でしたら、少し増やすという方向で書いてあったのですけれども、今回は現状維持を目標とするということです。ただ、状況からしますと、現状維持もかなり難しい部分があって、傾向としては減っていく傾向にあるのですけれども、それを現状維持ということにすると、現状からすると、増やす努力と同じような努力が必要となってくるものなのですけれども。もう少し現実に合わせて、減らした目標にする、あるいは、今のように現状維持、あるいは、従来のように、もう少し人口を増やすような目標で、この10年間を頑張るといいますけれども、いかがでしょうか。

#### 【柳田委員】

人口の件で、この前も議論を少ししていましたように、今まで、僕らのそこその年代になってから、ずっと考えると、常に右肩上がりの思考で物事を考えていたと。そういう時代でないという認識を、やはり、僕等も持つべきではなからうかという風に思っております。例えば、1万人減る。1万人減った分の中で、どのようなまちづくりをしていくのかという観点で考えるべきではなからうかなという思いが少しあります。

#### 【久部会長】

ありがとうございます。目標としては、現状維持ということでよろしいですか。

【柳田委員】

現状維持というか、仮に 11 万人なら、11 万人の、今、1 万人減という形の中での着地点を見ながら、考えていくという方向を持つべきではなかろうかなという。無理して、背伸びをして、増のための手段を打つのではなくてという思いがあります。

【久部会長】

他の方はいかがですか。

【木之下委員】

私もその部分については、色々と資料が揃ったとか、全体的な世の中の流れを見ても、あまり人口というところにこだわって、そこでの収入とかと考えるよりも、もう少し、人口が減るとするのは、これは、全国的に出生率が落ちているので、人口が増えるところはどこもないのではないかなという部分があるので、出生率のところから考えていかなければいけないことになるので、河内長野だけが頑張ってもということなので、全体的なことを考えると減るとい、減ってなおかつ元気になるまちづくりという視点で考えていけたらなと思うのですけれども。

【久部会長】

もう 1 つの観点として、部会別の意見集約の 1 ページのちょうど真ん中、調和と共生のまちづくり部会の 2 章のところの 1 番最後ですね、自治体間競争という話が出ているのですけれども、先ほどの木之下さんのお話を別の見方をすると、日本全体で増えることはないけれども、河内長野だけが増えるということが考えられるとすれば、それは他の人口を奪ってくるということです。もっと具体的に言えば、河内長野がとても魅力的なまちだということ、皆が認識をして、「河内長野に住みたいな」ということになってくると、周辺からも人が集まってきて、河内長野だけは人口が増えるという状況が出てくるのですけれども。その辺りで、人口フレームの中で、より魅力的にしていこうよということと、その、人口を増やそうよということが、ある意味で関係している部分もあって、ですから、単に社会的な、あるいは、自然的な人口減とか人口増だけではなくて、色々な問題がからんでくるころだと思うのです。私は個人的には、総合計画をつくっていく時に、皆さんがおっしゃるように、人口をどれだけ目標にするかということ、人口が目標ではないであろうというのは皆さんと同じなのですけれども、ただ、市の方かが総合計画をつくる時に、人口にこだわるのは、色々な施設をつくったりする時に、その人口規模にふさわしい施設づくりというのがあって、50 万人の市には 50 万人の市にふさわしい施設の規模というのがあるし、12 万人の市には 12 万人の市にふさわしい規模があるということで、その辺りで、人口の設定をある程度しておかないと、他の整備の

時の基準がつかれないということで、人口を今まできちんと決めてきたということなのです。そういう意味で、柳田さんがおっしゃるように、これから背伸びをして、大きな開発をする、あるいは、施設づくりをするという時代でもない。やはり、身の丈にあった施設づくり、あるいは、成熟していくということ言えば、12万人を目標とするというのが妥当かなというご意見であったと思うのですけれども、12万人維持を目標とするということによろしゅうございますか。

それでは、あと、4章なのですけれども、実は、今の骨子で言いますと、12ページのところで全く書かれていない部分があるのです。重点施策というところです。前回、協働のまちづくり部会に課せられた、4番目「安全安心都市」と、5番目「自律協働都市」の色々なご意見はお伺いしました。今回、少し、皆さんに更にご意見をお伺いしておきたいのは、この重点施策というところを埋めていかないといけないわけなのですけれども、我々の部会で考えるということは、「安全安心都市」ということと、「自律協働都市」という枠組みの中で、この10年間、重点的にここを考えていかなければいけないということを、皆さんのご意見も参考にしながら、事務局で書き込んでいただかないといけない作業が出てきます。

そういう意味で、少し、この10年間ということで、この重点施策に盛り込みますと、それは当然、名前の通り、重点的にこの10年間取り組むということになりますので、ある意味で重要な意味がある記述になるのですが、少しその辺りを念頭に置きながら、まず、順番から言いますと、4番目の「安全安心都市」、この辺りで、この10年間、どういうことを重点的に考えさせてもらったらいいのかということで、何かご意見をいただければと思うのですけれども。

いかがでしょうか。色々なお立場、あるいは1市民として、安全安心という観点でいうと、「この辺りは重点的にやってもらわないと困るよ」ということがあればということなのですが。市全体という話もあるし、それから、1個人として、「やはり、この辺りは重点的に、この10年、取り組んでもらったら、より暮らしやすくなるな」というご意見でも構いません。

なかなかご意見が出てこないようですので、5番の「自律協働都市」、協働の仕組みづくりですとか行財政改革、広域連携、この辺りで重点的に取り組んでみたい、あるいは、取り組んでいただきたいということはございますでしょうか。

#### 【木之下委員】

この前言ったこととダブるかもしれないのですけれども、協働の仕組みづくりというのが、安全安心の都市へということにもつながっていく、基本的なものではないかなと思います。この前、久先生の方からも、EUの方の緩やかな取り組みが行われているというようなところも含めて、この10年の間に、市民が参加して、自立出来る、市としても自立出来るし、協働という形を、河内長野市でどうつくっていくかという部分が出来

ば、後の安全安心都市、日常生活における安全安心の確保というのも、これも前回ぐら  
いから出てきていると思うのですが、お話の中でも、やはり、お隣とかコミュニ  
ティとか、そういう風な部分をいかに知っているかとか、そういう風な部分によって、  
確保出来るという部分が沢山あるのではないかなというのが出てきたと思うので、是非、  
協働のまちづくりのところに書いていただいているように、協働の仕組みづくりという  
のを、この10年間の重点施策の1つに挙げていただいて、やっていただければいいかな  
と思っています。

【久部会長】

具体的にどういう取り組みというのがありますでしょうか。

【木之下委員】

そうですね。出来れば、色々な広報とか情報というのが、すごく行き交ったらいいな  
ということだったので、やはり、市から出すことになる、どうしても責任  
とかそういう問題が、すごく追及されたりという形になるので、出来れば市民サイドで  
そういう風な部分が出来るように、コミュニティ的な部分をどこかで出来るということ。  
それで、それを、NPO がいいのか、ちょっと私もあれなので、そういうものが出来て、  
そこが、やはり、それが市と同じテーブルの上でお話を出来る場という部分をつくって  
いけるようなものを少しイメージしているのですが。

【久部会長】

実は、私は一昨日も、この同じ会議室で会議をさせていただいたのですが、  
協働の促進の懇談会をやっていまして、その内容も当然、総合計画に反映していただ  
かないといけないのですが、一昨日の話の中で一番盛り上がったのは、情報交換の場所  
が、あるいは、交流の場所がないということなのです。行政と市民との情報交換の場所  
も、先ほど木之下さんがおっしゃったように、まだまだ充実していないのですが、  
実は、市民同士の情報交換の場所だとか交流の場所というのも意外と少なく、例えば、  
町会とか地域の活動をやっていらっしゃる方は、いつも顔を合わせて頑張っている  
のですが、そこになかなか参画する機会のない市民の方々にとっては、同じ  
地域住民であっても、なかなか交流をする機会というのが少なかったり、あるいは、先  
ほど木之下さんの方から、NPO を活用するという話が出ましたが、NPO とか色々  
な活動をやっていらっしゃる方同士のつながりづくりのような機会も、なかなかない  
ということで、交流の場所とか情報交換の場所を充実していく必要があるのではないか  
という話があったのですが、何かそういうものを、この10年間で、色々なところ  
でいくつもつくる。それを市役所が支援をしていただくというようなことも、重点施策  
の中では非常に重要なのかなという気がしたのですが。

その辺り、特に、市民委員さんはどうでしょうかね。何かまちづくりとか、あるいは、市民活動とかで、自分達が色々な意見を言ったり、具体的に動いて、まちの課題を自分達で解決していったり、あるいは、市役所の方々に協力を求めたりという場所ということであると、現状はどうなっているのかということと、更にこの10年間で、こういうところが充実していけば、より私たちも頑張れるのになというところなのですけども。白木さん、どうですか。

【白木委員】

意見を言える場ということなのですけども、今日、私がこのような場に来る時に、来る前にいつも母が色々なことを言うのです。とても細かいことなのですけども、「河内長野に友人を呼ぶ時に、もっと魅力的な連れて行ける場所があったらいいのにな」とか、細かいことなのですけども、「河内長野のお土産と言われるものがあったらいい」とか、「蛸を見に行く時に、交通手段がほしい」とか、そういう細かいことを色々、「こういうことがあったらいいというのを言っておいて」というような感じで色々言われるのですけども、あまりにも細かくて、あまり言いにくいのですけども、そういう意見というか、住んでいる人の意見というのは、それぞれ沢山あると思うのです。そういう意見が、こういう人が持っているよということが色々なところに集まってきて、そういう意見が集まって、それを、こういう意見が多いからこういうことを考えていけるというような感じで、意見が集まる場所があったらいいのになと思うのです。それぞれ意見を色々持っていると思うのですけども、皆さんが持っている意見というのが見えなくて。大勢の意見というのがあると思うのですけども、それぞれ意見があって、でも、私も、母が言っていることはこういう場で言うことではないなと思って、あまり言わないのですけども。それぞれ、細かい意見というのが色々あって、それが集まったら、「こうなったらいいのにな」という大きな筋書きが出てくると思うのですけども、そういう意見がぱっと集まる、好き勝手に言えるような、そういう意見が集まる場があればいいのになという風に思います。

【久部会長】

ありがとうございました。多分、語弊になる部分もある言い方になりますけれども、ちょっとした思いつきとか、あるいは、つぶやきみたいな、そういうものが非常に重要なのに、なかなか、「ああ、ここで言ってもいいのかな」ということがあるので、言えていないのですね。

【白木委員】

ちょっとした意見というのを、わざわざ言う場所がないというか。ちょっとしたことなので。でも、そういうのは大切なのではないかなと、私は思うのですけども。

#### 【久部会長】

もう少し具体的に言うと、多分、道端でとか、友達同士で集まっている井戸端会議ではそういうのがいくらでも出ていると思うのです。でも、そこで言っても、それは話が流れてしまうだけで誰も受け取ってくれないのです。多分、そういうところに、ちゃんと動ける人が、行政の人も含めていれば、「ああ、そういう意見があるんやったらこうしようか」とやってくれるのに、その辺りに大きな溝がまだあって、なかなか難しいなというところだと思うのです。だから、多分、白木さんのご意見をもう少し違う言い方をすれば、審議会へわざわざ手を挙げてもらって意見を聞きますというのでもいいのだけれども、もっと気楽なところでちょっとした発言が出来て、それが行政の方にもちゃんと届けられるというような、そんなところがあつたらいいなということだと思うのですけれども。

これは事務局にお聞きすればいいのか藤助役に聞けばいいのか、そういうちょっとした意見が市役所に届けられる仕組みというのは、現状ではどうなのでしょう。

#### 【藤委員】

現状では、駅にカードを置いていまして、気付いたことを書いていただきまして出してください。もしくは、インターネットで、メールでそういう風な要望とかご意見をいただく、そして、それに対して、お答えをしていくという仕組みは出来ているのですが。

ただ、よその市に行きますと、その市民の声を、一度庁内の、行政を担当するトップが、それを1つ聞きましよう。そして、具体的に使えるものが、それをですね、即、実行出来るように、上から下に降ろしましようという仕組みが、よその市にはあるようなのです。今から15年前に河内長野市もそれをちょっと試みたわけですが、まだ、少しうまくいっていないのです。だから、今のところは、そういう駅のところでアンケートというか、ご意見を書いて出していただく。使っていただいた、その公民館とかという施設でも、そういうものがありますから、どうぞ出してください。それに対して、お答えをさせていただきますと、そういうことは出来ているのですけれども、ただ、今気付いたことを出していただく、もしくは聞いていただくという場合には、出前講座制度というのを、去年からやっているのです。その時に、「こういうことを知りたい」、「こういうことを聞きたい」というグループがあれば、そこへ出ていきますので、その時に、「市の方の話も聞いたけれども、しかし、このことについて、ご意見を聞かせていただく」という機会も、これからまた増えてくると思うのです。ですから、そういう風なこともこれから増やしていきたいと。

それともう1つは、部会長もおっしゃる通り、そういう施設なのですね。だから、昔のように、生活の1つである、洗濯をしながら話をするというのも、ちょっと出来ませ



なので、多分、集会所であるとか、学校であるとか、もしくは、そういう風に公民館であるとか、そういう風なところに気楽に出向いていかれて、そして、市民の方と行政とが、そういうお互いの情報を公開しながら、その地域にあった行政サービスとは一体何なのですかということを、お互いが確認し合いながら取り組む必要性が出てくるのではないかなと。そこから、この協働というものが始まってくるのではないかなという気がしているのです。

【久部会長】

重点施策の中で、そういう身近な人たちが身近に使える施設ということで言えば、全ての地域で満遍なく揃っている施設というのは、河内長野の場合、何になるのですかね。

【柳田委員】

学校なのでしょうね。

【久部会長】

何故その話をさせていただくかということ、箕面市はその辺りの施策を、10 数年前から打っているのは、コミュニティセンターを小学校単位でつくっています。そういうのが、1つの戦略なのです。公民館ではなくて、コミュニティセンターだということにしているのですけれども、どうですかね、「コミュニティセンターも公民館も一緒やないか」と言う方もおられるのですけれども、これは正確に言うと、公民館とコミュニティセンターというのは、基づいている法律も違うし、運用の仕方も全く違うのです。何故、箕面がコミュニティセンターかと言うと、ご承知の方にはくどい話になりますけれども、コミュニティセンターというのは、地域の方々が自主的に運営委員会をつくられてやるのです。そういう意味で、やはり、地域の方々が運営をし、自分達の努力で使いやすい施設にしてもらおうということで、敢えて箕面では、コミュニティセンターを各小学校区につくっているということをやっています。

多分、このご時世で、新しいものをつくるというのは難しいということになりますので、そういう意味では、小学校というのが各地域で1番使いやすいというお話が今、出たと思うのですが、大阪市は、実は公民館をほとんど持っていないのです。その代わりに、小学校の1教室を使って、生涯学習ルームというのをつくっているのです。この生涯学習ルームが拠点となって、色々な活動が展開していくということになっていて、大阪市の場合は、新しい入れ物をつくるのではなくて、小学校の教室を地域に開放していくという中でやっているのです。

あと、ちょっと、河内長野の状況をお聞かせいただきたいのですけれども、でも、小学校を開放するというのは、小学校側の抵抗があったり、教育委員会側の抵抗があったりで、なかなかオープンにしづらいということがあつたり、最近はまだ、小学生を狙った

事件なんかが発生していて、ますます学校側がガードをしてしまう社会状況にはなっていますね。その辺り、先ほど提起をさせてもらった、小学校が各地域で1番揃っているということであった時に、学校開放という可能性が、地域開放ですよ、今、河内長野の状況とかをこれから考えていく中でどうなのかということ、ちょっとご意見をいただければと思うのですけれども、今は具体的にはどうなっていますか。小学校の地域開放という。

#### 【藤委員】

小学校も中学校も、まあ、芝本先生の方がご存知ですが、開放はしているのです。ただ、建物の中まで入っていない。建物は体育館だけなのです。グラウンドと体育館の開放はやっています。しかし、これからしていかなければいけないのは、各地域の方々が、別に弱者の世話をしたい。そのためには、炊き物をしたり、ものをつくったりしなければいけないと。その設備が学校にあるではないかと、料理教室があるでしょうと、そして、コンピューターの機械もちゃんとあるじゃないかと。それは、使っていない時に、地域の方が使えるということなので、今、教育委員会の方で、今の学校開放以外に、余裕教室をいかに活用しようかということで、今、議論が教育委員会でされまして、もう少しすると、その結果が出てくるのです。ただ、難しいのが、今まで40人学級なのですよと言っていたのが、少し、35人学級から30人学級にこれからいくのではないかなと。そこで今、部会長がおっしゃるとおり、少しまた、教育委員会のガードが固くなりそうかなという気は少ししているのですが、しかし、空いているところはまだありますので、それを使ってやっていこうということで、学校開放は、グラウンドと体育館は、学校が使っていない時には開放しています。

それと、少し付け足しなのですが、先ほど、コミュニティセンターの話が出たのですけれども、河内長野市も公民館で確かに、元々6か町村で合併したものですから、各6か町村に公民館をつくるということをやってきました。しかし、公民館であれば、おっしゃるとおり、法律がありまして、「使えない」という苦情が大分出るのです。さすればいかにしようかとういことで、河内長野市も、やはり、コミュニティセンターということで、今、滝畑、小山田、清見台、日野ということで、4つのコミュニティセンターを建設したのですが、市長の公約にもあるのですけれども、やってきたのですけれども、非常に好評なのです。皆さんが、地域の方々が自分で管理し、そして、活用していただけると、非常に好評なのです。これをもう少し、広げていきたいのですが、今のご時世、なかなか財源的に厳しいような状況でございますので、更に次のところでは、余裕教室、1教室か2教室を使って、そして、そういう施設整備をやっていこうという動きが今、取られているのが現状です。

#### 【久部会長】

何か、基本的には、私は、色々な地域でまちづくりのお手伝いをしていて、小学校区に1つずつぐらいは、やはり、色々な方々が自由に集まって、活動を展開するような拠点が必要だと思うのです。それは、必ずしも全ての小学校をそうしなさいということではなくて、コミュニティセンターのあるところはコミュニティセンターを使っていたらいいし、公民館が使い勝手のいいところは、公民館を使えたらいいのですけれども、そういう意味では、この重点施策ということであると、「何々をどうしなさい」というよりも、その、小学校区単位とか身近なところで、地域の方々が自主的に集まって色々な活動が出来る、そういう拠点づくりをこの10年間で整備をしてくださいというような書きぶりなのかなと思うのですけれども。

それと、これは公民館を一旦廃止するというのもまた、法律的にはなかなか難しいところなのですけれども、八尾市は、実は昭和40年代に、コミュニティセンターを設置しなさいというのが、当時の自治省から来た時に、公民館を全部やめているのです。コミュニティセンターに全部変えたのですね。それも1つの戦略なのです。結局、コミュニティセンターでも公民館でも同じような機能をするのに、コミュニティセンターがあり、公民館があるというのも、市民の方々にもややこしいだろうということで、全部コミュニティセンターにしようということで、一時あった公民館も全部、コミュニティセンターに統合してしまったのです。そういう戦略を取っているのです。

だから、ひょっとすると、これは市役所サイドの話ですけれども、公民館が使い勝手が悪いのだったら、名前だけをコミュニティセンターにしてしまおうとか、あるいは、そうなってくると、廃止の手続をしないといけないので、ややこしければ、3分の1を公民館にして、3分の2はコミュニティセンターにしてしまおうとか、何かそういう運用でうまくやれば、使い勝手を上げられるというような部分も出てくるかと思えますので、これはもっと細かな政策になりますので、今後検討していただきたいと思うのですけれども。新しいものをわざわざつくらなくても、今の現有施設をうまく工夫をして、運用面を工夫していけば、かなり面白いところで、色々なことが出来るようになると思うのですけれども。

ちょっと話題提供をお願いしたいのは、横谷さんは、仕事でやられている、橋本亭という、皆さん箕面と言えば滝ということになると思うのですけれども、その滝へ向かうところに、明治時代に建てられた3階建ての木造の旅館があったのですけれども、それが廃止になったということで、空いていたのです。そこを、今うまく、地域の拠点として利用しようというのを、横谷さんの方で本業でやられています、少しその辺りを何か、話題提供をしていただけますか。

#### 【横谷委員】

橋本亭という建物は、明治の終わりに建てられた建物で、滝道周辺には、明治の頃から昭和の初めにかけて、旅館が何軒もあったのです。それがどんどん廃れていって、今

はもう、紅葉の天ぷらという名物があるのですけれども、それをちょこちょこ売っている状況だったのです。滝道もどんどん、通り自体が下り坂になってしまって、橋本亭という建物も、オーナーの方がご高齢になっていて、ちょうど、旅館としても開店休業状態でありました。その建物のファンは多かったのです。通られる方とかは、ハイキングの方とかが多いので、これをつぶしてしまうのはもったいないということで、リースをしたわけです。どういう使われ方をしているか、現状というのは、1階が喫茶店と、フェアトレードショップという、発展途上国のものを適正な価格で売るという、そういう活動をしている方が箕面周辺にいらっしゃったので、その方がアンテナショップを出されています。あとは、会議とかが出来るとなスペースが2階にあるので、それを時間貸しでどうぞ使ってくださいという形で提供しているわけです。朝の10時から夜の10時まで、広く使っていただくということで、11月から開始したところなので、まだ模索中なのですけれども、愛されるような場所ですし、建物ですし、そういうのを市民の方に広く使っていただいて、この地域の活性の起爆剤になればと思って、今、活用しています。

#### 【久部会長】

ありがとうございました。なぜ、ご紹介していただいたかということ、多分河内長野でも、色々探せば、そういう使いそうなところというのが案外ありまして、公共施設だけではないということなのですね。例えば、今、長野の駅前でもやられていますけれども、いわゆる空き店舗で、そういう地域の拠点をつくられたりということもやれますので。

それと、もう1つのポイントは、先ほどのお話があったように、建物を残そうという市民の強い思いがあったということで、だからこそ、何とか皆で活用していこうよという動きがあって、市役所だけが勝手に、「さあ、建物を買いましたから使ってください」と言ったわけではないということで、そういう市民の協働もあって回り出しているということが、1つのポイントかなと思います。これも具体的な話ですけれども、先ほどの地域の拠点づくりというのは、必ずしも公共の施設だけではなくて、民間がお持ちの施設でも、うまくその辺りの仕掛けを考えていただくと、有効活用出来るのではないかなと思うのです。

もう1つ、具体的なお話をさせていただきますと、吹田に、「歴史文化まちづくりセンター」というのがあるのですけれども、ここは旧庄屋さんのお宅だったのですけれども、あるご事情で使わなくなったということで、その地主さんがまるまる寄付をしてくださいました。寄付をされたと言ってもやはり、江戸時代からの庄屋さんですので、修理だけでもかなりの額がかかったのですけれども、そこを地域の方々の市民活動の拠点として今、活用ということです。だから、そういう意味では、昔の建物も残せるし、かつ、地域の方々の活動の拠点にもなるということで、一石二鳥、一石三鳥ということにもな

りますので、そういう複合施策を考えていただくといいのかなとも思いますし、先ほど、一昨日の話の中でも、商工会から来ておられる塔本さんがおっしゃっていたのですけれども、今、長野の商店街でやっている子育て支援の場所も、1つのお金は商工サイドと言いますか、商業活性化で補助金をいただいている。そして、一方では、福祉の、子育て支援の補助金を組み合わせることが出来るということで、これは、2番目の行財政改革の話を上申しているのですが、今までのように縦割りで、商店街の活性化は、それだけで何かをやるとか、子育て支援は子育て支援だけでやるのではなくて、複数の部署が協力しあってやれば、相乗効果が出るのです。その辺が1つ、空き店舗を活用した子育て支援の拠点なのですけれども、何かそのような形の複合的なことを考えていただくということも、この重点施策の中で、もっと取り入れてほしい。それが、いわゆる縦割り行政を変えていくということなのです。縦割り行政を変えていくというのは、どうも言葉だけが先行して、「頑張ってください」というだけなのですけれども、実はそうではなくて、そういう具体的なものがあれば、変わっていかざるを得ないのです。そういう風なところを、市民サイドも一緒になって頑張ってくださいといいのかなという気がしますけれども。お1人ずつ話題提供をしていただきながら、こういう形でやりたいと思うのですが、今の話とも直接関係しなくても結構ですけれども、村上さんの方から何かご意見とか思いがあれば。

#### 【村上委員】

若い人の話になるのですけれども、縦割り、横割りというのは、ちょっと具体的に意見はないのですけれども。

先ほどの話に戻ってしまうのですが、白木さんがおっしゃっていたように、私の職場に河内長野市民の方がいらっしゃって、最近、よく話をするのです。それで、色々細かい意見とかがあるじゃないですか。そういうのも言えるところがないということも言っていたのですが、私とか若い人たちも、色々な意見があると思うのですけれども、「聞くよ」と市役所から言われても、過去なのですけれども、対応されないところがあるのです、若い人というのは。私は1回、税金のことで、もめたというわけではないのですが、対応でそうなったことがあって、もう、ちょっとそこからトラウマみたいになってしまうのですよ。なめられているというわけではないのですけれども。そういうので、どんどん市役所から遠ざかっていくから、市にも興味がなくなってきたりもするので。そして、意見を交換する、若い人を対象にというのもつくっていただけたらありがたいなと思います。だけど、それでまた、「何時、1ヶ月に1回来てください」というと、また、制約されているようなので、自由に、「この日に来られる人は来てください」とかいうのがあればいいなと思います。

#### 【久部会長】

どうですか。多分、地域活動とか市民活動とかやられている方でも、10代、20代、30代の方々に参画していただきたいと思っているのですが、なかなかそういう機会が見つからないのです。木之下さんはずっと活動をやられていてどうですか。若い方々の参画というのは。

#### 【木之下委員】

それが一番今、ネックなのです。だから、色々なやり方というのをやっていかなければいけないなという部分で、今言ったみたいに、昔というのは、私たちもちょうど途中にいているのですが、もう少し上の方は、絶対的に「これをやるのだ」と決めたら、毎回、規則正しくきっちりやらなくてはという部分があって、来ないと、「あ、あの人来なかった」と、追及とかというわけではないのですけれども、そういう部分で、次回は少し行きにくくなるとかという部分があるという形のやり方。ボランティアにしてもそう、ボランティアというのはやらなくてはいけないみたいな感じでやっていたと思うのですが、今はそうではなくて、やはり、情報の提供の部分で、「何かをやっているよ」というところから入ってきてもらう形というか、その部分をつくっていかねばいけないという部分で、今、なるべくそうしたいなということで、しんどい部分というか、企画とかそういう風な部分は、それを得意とする者がいるのです、文章をつくるとか色々な部分で。「そこに所属して出来ますよ」と、時間がある者がやっていって、あと、催しを何回も、色々な形を変えて提供していって、その中に来てくださる方から、また、色々な意見をいただいたりとか、「一緒に参加して楽しかったね」と、やはり、楽しいという部分を持たないと、最近はいけないのかなという風に、今、私たちの世代でつくっている会としては、そのことを今、少し考えているところなのです。

#### 【久部会長】

河内長野は、例えば、色々なことをやる時に、ワークショップというのが最近ありますよね。自由に来てもらって、わいわいというような。そういうワークショップ形式でやったことはあるのでしょうか。計画づくりでも施設づくりでも。

#### 【木之下委員】

一度だけ、この前、私は、河内長野市環境基本計画というのをつくるときに、河内長野市のふるさとと呼べるまちをつくらうということで、市民が5、6人、私も入っていたのですが、話し合っていた中で、一応、河内長野の市民の環境基本計画というのをつくるには、必ず市民のフリートークとか、市民の皆さんの色々な意見がいるのではないかなということで、一応、ワークショップという形で会をしたことがあるのですが、やはりそこには、何気なくその催しに来た人たちが入っていただいて、意見を色々交換したということの中で、今、その中で来られた男性の方とかも、「こんなこ

とをやっていると、こんなことで意見が言えるとは思わなかったのだけれども、目覚めたので」ということで、ずっと、色々な形で、そういう風なものに取り組みを今、されている方もいらっしゃるので、ワークショップをするというのはいいのかなと思っているので、なるべくそういう風な形を今、私がやっている会の中でも、なるべくそういう風な形というのを取ろうとはしているのです。

#### 【久部会長】

私も色々なところでワークショップをお手伝いしたり、自分でも仕掛けてやっていますけれども、やはり、先ほど、村上さんがおっしゃったような、若い方々も含めて自由に来て、色々な意見を交換出来るという意味では、ワークショップというのはとてもいい機会かなと思っているのですけれども、実は、そこでもなかなか難しいところがあって、茨木で中心市街地活性化計画というのをつくった時に、3年間続けて、年に数回ずつ、ワークショップをやってきたのですけれども、2年間やってきて、同じ方々しか来てくれないなということで、3年目は新しい方に来てほしいということで、少し工夫をさせていただいたのですけれども、その時に一番不足していたのは、子育て世代の方々が不足していたので、その方にちょっと呼びかけをさせていただいて来てもらったのですが、感想で面白かったのが、「やはり、私は、扉を開けるのに勇気がいりました」と。いくら、「来てください」と書いてあっても、自由に参加出来るを書いてあっても、やはり、初めての人にとっては、扉を開ける勇気がいるのだという。そして、ぱっと開けた時に、やはり高齢者が多いのです。「ちょっと場違いかなと思って、しり込みしたのだけれども、来て2時間話をしたら、とても良かったから、また次回も来させてもらいます」という話があったのです。そういう意味では、何が言いたいかということ、やはり、いくら、「自由に来てください」と書いてあっても、第1歩を踏み出す勇気というのは、すごく大変なことなのだと思います。

それを変えていくためには、やはり、友達が誘わないといけないと、私は最近、思っています。だから、一番、参加者を増やせるのは、「あんたも行こうよ」と、「私も行っているから、あなたも行こうよ」というような形で誘うというのが、一番いいので、木之下さんなども経験されているかと思いますが、いくらピラをまいても、ピラで来てくれる方というのは本当に少ないので、1,000枚まいても1万枚まいても、ピラは同じであると私は個人的には思っています、やはり、口コミというか、友達が一緒に行こうよと言ってくれるのが一番いいかなと思っています。

そういう意味では、市役所職員さんもそうだと思うのです。先ほど、藤さんの方から、「出前講座もあります」、「これもあります」という風にありましたけれども、やはり、個人が個人を誘うというのが一番確実なので、市役所職員さんも、「ピラをまいています」、「広報に載せています」ということではなくて、自分が知り合いの方に声をかけてくると。「絶対に来てね」、「何月何日の何時からやっているから来てや」ということを、声を

掛けていくという作業が必要で、実は先ほどの茨木の話に戻りますけれども、今の茨木市の都市計画課の方々は、そういう形で、お1人おひとりが、市民に声をかけていているのです。先ほどの子育て世代の方々も、どうやってお誘いしたかという、子育てネットワークの方が会合を開いていますよね。そこにわざわざ出かけていくのです。そこで、「すみませんけれども、ワークショップの真似事をやらせてください」ということで、1時間、時間をいただいて、意見をもらって、「こんなことをまた、何月何日の何時からやっていますから、興味があったら、来てくれませんか」という形でいくのです。

それから、もう1つは、茨木も出前講座を持ってしまして、中学校の先生とか高校の先生が、授業中に生徒に話をしてくれということで、出前講座に呼ばれるのです。必ずその時も、学校の先生に、「私達が来たから、今度は先生方もワークショップがあるから来てちょうだい」ということで、声をかけるのです。そうすると、必ず何人が来てくれるという形の関係づくり。やはり、個人対個人の関係づくりをやっているのです。そこが、1つの突破口かなと思ってまして、だから、仕掛け、仕組みを充実させる以上に、お1人おひとりの市の職員さんが、個人として市民の方々に声をかけていくとか、あるいは、この前から白木さんがおっしゃっているように、友達が市役所の職員であれば、市役所に親しみがあったり、色々な情報が流れてくるわけですから、今、友達でなくても、これから市役所職員と市民が友達になっていく、何かそのような関係づくりをやっていくことが、多分、一番、突破口としては現実味を帯びているのかなと思います。そういう意味で、今までのお話を聞かせていただいても、まだ、どこかに敷居をつくってしまいそうな関係づくりかなと思ってまして、もっともっと、お互いが身近に来られるような関係にならないかなということなのですから。

話が長くなりますけれども、茨木では月に1回、まちづくりサロンということで、市役所で自由に使える空間があります。そこに来てもらって、2時間、雑談でもいいので、まちづくりの話をしようというところから始めています。そこで、「面白いやないの」ということで、どんどん輪が広がって今に至っているのです。

先ほどの白木さんのお話でいうと、ぶらっと来られるとか、そういう、気兼ねなく話が出来るところを、どんどん市役所の中にもつくっていったらいいのだと思うのです。今は、「相談」でないと、話を聞いてくれませんよね。そうではなくて、サロンのように、ぶらっと来たら、何でも話を聞いてくれるよ、話が出来るといふ場所を、何か、市役所の中に定例的につくっていけば、もっと違う形での関係が出来るとは思わないかなと思うのですけれども。

あまりそういう場所って、今までないのではないのでしょうか。何かやはり、きちんと話さなければいけない場所ばかりで、お茶を飲みに来るとかそういう中で、色々な話が盛り上がるかという機会は、なかなかないのではないかなと思うのですが。それに近い形というのはないのですか、どこかで。市民サイドでもいいですし、市役所の関係でもいいですし、サロンのような場所というのは、なかなかないですか。声が上がらない。



案外、市民活動もそうなっているのですよね。やはり、用事があって集まる集まりは  
いっぱいあるのだけれども、何気なくぶらっと来て、お茶を飲みながら、雑談しながら  
意見交換が出来る場所というのは、案外ありそうでないのですよね。

【田中（晃）副部長】

どうなのでしょう、村上さん。小さなお子さんがいらっしゃることなのです  
けれども、私もそうなのですから、実は、同じマンションの中で同じような子ども  
を持つ人たちとばっと集まって、子どものことについて相談しあうとか、色々情報交換  
をすとか、それは特定の施設とかではなくて、個人的な家に集まったりとか、それが  
グループになったりとか、そういうことがあると思うのですけれども、村上さんの場合  
はいかがでしょうか。そういうこととかは結構あるのでしょうか。

【村上委員】

私は河内長野市に住んでいた人間ではないので、まず、自分の友人というのはいてい  
なくて、あと、私は昼間は仕事で堺まで出ているので、子どもは両親に預けているので、  
帰ってくるのが夕方になって。マンションに住んでいるのですけれども、小さいお子さ  
んがいておられる方もいて、挨拶程度で、まだ、2年ぐらいなので、親しくはなってい  
ないのですけれども。

【田中（晃）副部長】

私なども保育園とかに預けるのですけれども、そうすると、保育園とかの集まりでは、  
結構話し合ったりする人に会うので、ご挨拶したりするのですけれども、また、幼稚園  
に行ったら幼稚園で、仲間同士で話し合う、小学校に行ったら小学校で、私達、小さな  
子どもがいる場合は、小学校なんかは、なかなか行く機会が持てないというのがあるの  
ですけれども。そういう風にして、何か、子どもを持っていても縦割りというか、年齢  
ごとに、なかなか交流を持つということはあるのだけれども、違う年齢同士の色々な人  
達との会話とか交流というのはなくて、村上さんも同じだと思うのですけれども、私も  
仕事を持ちながらなので、結構そういうところで、気軽に集まれる場所というのが難し  
いのですよね。

でも、例えば、千里ニュータウンの方で、空き店舗を利用したまちかど広場というの  
があるのですけれども、そこは、元公民分館長の女性の方の赤井さんという、とてもパ  
ワフルな方がキーパーソンになって、そこで、100円を皆さんに入れていただいて、お茶  
やコーヒーを出してくれるのですけれども、気軽にぶらっと寄って、そこで色々な話が  
出来て、私なども、時々子どもを連れて行くのですけれども、私も最初に入る時にはと  
ても抵抗があったのですけれども、子どもというのは人を選ばないから、抵抗もなくて  
ぶらっと入ってしまうのです。「ちょっと待って」という感じで入って、そこで、お茶を

1時間ほど飲んでみると、歳のいったおじいさんが子育て論みたいなのを話してくれたり、あるいは、大学の学生がアンケートをとりたいということで、「ちょっとご意見を聞かせてください」ということで、老若男女、色々な人が集まってくるようになってきて、そこで、3年経ったのですけれど、3年の記念イベントに、例えば、中学校の和太鼓をやっている学生さんと呼んで、そこで披露してもらったりとか、あるいは、産地直送の野菜を売ったりとかして、だんだんとそういう賑わいが出てきているのですけれども、そういうキーパーソンの方がいらっしゃれば、色々な人が集まってくると思うのですけれども、そういう場所というのもあるのかなと、河内長野でもそういう場所があればいいかなという気が少ししています。

#### 【久部会長】

そこは子ども達の教育の場所になっていまして、教育というのは教えるということではなくて、日常のやり取りの中で、しつけとか教育が出来るのです。先ほどの、赤井さんという方のキャラクターにも拠っているのですけれども、この前、私達も、ある会合をやっていた時に、子ども達はいつも、「お茶を飲ませて」とか、「水を飲ませて」とか言って来るのです。我々が会合をしていたもので、赤井さんもテーブルについていたので、なかなか対応出来なくて、「ちょっと待って。お茶を飲ませてくるわ」と言って、お茶を飲ませて、子ども達はお茶を飲み終わったわけです。「帰ってええよ」と言っても、帰らないのです。ずっと、赤井さんが出てこられるまで待っていたのです。何故待っていたかという、「ありがとう」という言葉を言わない限りは帰られないということで、ずっとその場で立っていたのです。すごい、「今の子どもでもちゃんとできるんやな」と思って、後から話を聞いたら、「いや、それは違うんやで。それは赤井さんが厳しく言うからこうなったんやで」ということで、「最初は挨拶もせんと帰っている子どもがおったんや」と。でも、「やっぱり、人に親切にされたら、ありがとうの一言を言うのが当たり前違うの」と、とくとくと、赤井さんがやられた結果、「あそこではお茶を飲めるけれども、挨拶をせえへんと帰られへん」ということが、子ども達の間で広まっているらしいのです。そういうことの中で、当たり前の関係の中で、しつけとか教育が出来ればなというのがあって、そんな関係も実は副次効果で、単にぶらっと集まる場所なのだけれども、うまく活用すれば出来るのだなという話なのですけれども。横谷さんはないでしょうか。

#### 【横谷委員】

河内長野の話で言えば、僕がぶらっと行くのは飲み屋しかないのですけれども、市役所の近くにショットバーがあって、僕もずっと、小学校の時から河内長野に住んでいるので、そこにはその場で知り合った友達とか、大体同じぐらいの世代の友達とかが集まっていて、それが楽しいし、そういう仲間が出来るところというのがあるので、職場が

箕面なのですけれども、なかなか河内長野を離れられない 1 つになっているのですけれども。ぶらっと立ち寄れるような場所が河内長野にも、僕はそこがあるのでいいのですけれども、少し違う種類の色々活動している人と交流を深めるところがあればいいなと思っているのですけれども。

実際、箕面の方で、橋本亭という施設を、運営とか管理とかをしているのですけれども、色々な方が結構来られるのです。絵を描いている人がいて、団体とかがあって、そして、その方が橋本亭を気に入ったから場所を貸してくれと。中をギャラリーにして展示をしたいから貸してほしいとか、色々なそういう、写真を撮りたいとか、なかなか、場が定着していくというのが、とても時間がかかると思うので、河内長野も地道にやっつけていけばいいのではないかなと思うのですけれども。行政のバックアップとか、つなげていく方法とかも、色々河内長野の場合にも考えていった方がいいのではないかなと思います。

#### 【久部会長】

どうですか。皆さんも話を聞きながら。ちょっと、私から問題提起というか、話をさせていたきたいのは、今から数年前になるのですけれども、国際日本文化研究センターの白幡洋三郎先生が、中央公論という雑誌に、公園なんてもういないという論文を書いて、とても脚光を浴びたのです。白幡先生は元々、公園の専門家、公園の専門家が、「公園なんてもういない」と書いたので、「どうゆうことや」ということで、仲間からもかなり攻撃を受けたのですけれども、内容は非常に的を的について、結局、うちの部会の1つの、4番の「安全安心都市」の中の基盤整備もそうですけれども、どうしても公園がいるというのです。ところが、白幡先生の論文の中に書いてあるのは、「公園がいると言うけれども、ほんまに皆、公園を使っているか」ということなのです。ちょっと、皆さんにお聞きしますけれども、この1ヶ月で、公園で何かをしましたかということなのです。1ヶ月のうちに、公園に行かれた方はおられますでしょうか。案外行っていないのですよね。小さな子どもさんとか、散歩のついでに高齢者の方が利用するとかいうのはあるのだけれども、案外、公園は利用勝手が悪いのです。例えば、私なんかもそうですけれども、私の年代で公園に2時間ベンチに座っていると、変な奴だと思われます。だから、そういうことを白幡先生は指摘されているのです。公園が必要だと言うけれども、本当に全ての人にとって、公園とは何なんだろうかということを考えてみなさいよということなのです。

先ほどの横谷さんのお話に関わるのですけれども、ひょっとすると、中年の男性は、赤提灯が公園ではないかということなのです。公園というのは、皆がぶらっと来て、ここで休憩出来たり、あるいは、会話が出来たりするところが公園だとした時に、今、いわゆる、きちんとつくっている、緑を植えているだけの公園ではなくて、公園的な場所が色々なところにあつたらいいということと違うのかということが、白幡先生の主張な

のです。だから、そういう意味では、今までの杓子定規につくった公園がいらないということ、でも、公園的な場所は、色々なところで色々な形であつたらいいのではないかという主張なのです。

先ほど、横谷さんのお話を聞いていて、横谷さんにとっては多分、その行きつけのショットバーが公園なのです。行ったらマスターと話しが出来るとか、お客さん同士で話が弾むとか、わざわざ仕事の帰りに寄るといのは、やはり、そこに癒しの場所があるということですね。それは、まさしく公園なのです。

そこで言えば、イギリスにはパブというのが町々にあつて、パブで皆が話をしている、そこで政治の談義などもやられているのです。何かそのような場所をもっとつくっていくと。だから、必ずしも、いわゆるお決まりの公園をつくるのではなくて、先ほど、私はサロンという話をさせてもらいましたけれども、皆が集まって、居心地が良くて、そこで色々な交流が生まれたり、コミュニティがつけられるような場所とか空間を、もっと河内長野の中で充実させるということが、この10年間の中であつてもいいのかなと思いますし、また、先ほど村上さんがおっしゃった、多分、若者の溜まり場はあるのですよね。そこがもっと色々な形で活性化してきて、場合によっては、政治の談義なども起こって、そこから色々な活動とか提案が生まれてくるとか、そのような形でやっていけばいいのかなという気がするのです。

#### 【田中（喜）委員】

今ちょっと、公園の方のご意見が出たので言わせていただきたいのですが、現在ある公園の利用方法ですね、その利用の規制というのは、非常に、法にかかって制約されているから非常に難しいという一面もあるので、もっと、やはり、地域に根ざした公園の利用方法というものを、皆さん方で、地域で考えていただいて、それをもとに、マニュアル的なものを、河内長野独自の公園の利用方法というのを考えていただきたいなと思うのです、今度の第4次総合計画で。というのは、国の法に基づいての規制がかかっている、これを何か特区か何かでとっぱらってもらう、これが一番必要かなと思うのです。だから、利用形態にも色々制約があるので使われない面もあるので、やはり、地域の拠点というのは建屋だけでもなしに、やはり、公園の利用方法をもっと皆で考えていただくというのが、もっと大事な事かなと私は思うわけですので、その辺のところを、ちょっとしっかりした、河内長野独自のものをつくっていただくように、独自の公園ではなくて、現在ある公園の、この法のちょっと、部分を検討していただきたいなと、こういう風に思うので1つまた、書いていただきたいなと思います。

#### 【久部会長】

多分、都市公園法もかなり柔軟にはなつてはきているのですが、法律というのは別に、杓子定規に使うためにあるのではなくて、やはり、トラブルが起らないよう

に法律はあるので、その法律に拠らなくても、トラブルが起こらなければ、それはそれでいいと私も思うのですけれども、ただ、ちょっと皆さんにも投げかけたい問題は、公園の利用に対しての、お1人おひとりの思いが違うのです。やはり、ご近所の方が、騒がれたら困るという話もあって、あるいは、トイレをつくる、つくらないということで、この前もワークショップをやったのですけれども、賛否両論なのです。「トイレが必要だと言っても、でもトイレをつくって誰が掃除をするんや」という話になって、近所の方は、「臭いからやめてくれ」という話になって、なかなかそういう意味では、地域の方々が集まってルールをつくるというのは、なかなか難しいのです。確かに、田中さんがおっしゃるように、そこでうまく地域の方々の総意が出来れば、色々な使い勝手が考えられるかと思うのですけれども。

多分、それは公園だけではなくて、先ほどの公民館の話も同じでしょうし、色々な施設の利用法を、地域の方々が自ら考えていただくと。場合によったら、自分達でやった方が使い勝手上がるかもしれません。先ほどの、藤さんのお話にあった、コミュニティセンターがそうですね。やはり、自分達で管理するから、自分達でルールを決められるし、利用勝手も上がってくるというようなことなのだと思います。

#### 【田中（喜）委員】

これがやはり一番大事なところかなと思うのですけれども、色々と規制がかかるから、また、法に基づいて、「それやったらできへんのと違うかな」というような意見の方があって、それを突かれると、また、地域の人たちで寄ってやった時に、「こういう法律なんや。これやったら、市役所に聞いてみよ」とか、そういう風なことを聞くと、やはり、そういう規制があるので、「それは使ったら困りますよ」とか、「管理は市でしますよ」とか、そういう風になるから、非常に使われないのです。だから、その辺のところを思い切って任すという風に管理していただければ、今、トイレの話が出ましたけれども、やはり、公衆トイレなどでも、地域で全部掃除をしてくれるのです、実際。ところが、こういう風なことがあると、「それやったら、市でやらんかい」という風なことも、あちこちで、河内長野でも出ているのです。だから、やはり、その辺のところ、もう少し地域の人に思い切って任すというようなことでやれば、一番、私はいいいのかなと思うので。それをどういう風に使うと、中で責任を持ってやって、管理を任すという風なことでやれば、やはり、自治会単位でも、公園を持っている自治会の方でお任せすれば、それはそれで、使い勝手とかそういったものも、色々な管理をしていただけるのではないかと思うというよりは、本当にやっていただけると確信しています。この中で一番、トラブルが多いのです。そこは、やはり、1つの拠点にもなるのかなという気がしますし、やはり、安心安全の時でも、日常から公園に集まって、色々なことをしておけば、やはり、その中で、どういう風にしたらいいのだという話も結構出てくるので、気楽に来ていただくという面においては、それが一番かなと、ベターな方法ではないかという風に

思います。

【久部会長】

その辺りは皆さんご賛同でしょうか。地域の方に、色々な施設とか公園の管理とか運用をお任せすると。その中で、自由にルールを決めていってもらって、そのまちなりのルールにしていくというのはどうでしょうか。

【横谷委員】

施設とか、まあ、小さい施設から大きい施設まで色々あるかと思うのですが、自分が好きだなとか、愛着が持てるかというものであれば、手を動かしてもいいかなとか、多少お金でも払おうかなとか、そういう思いは多分出てくるかと思うのですが、今の僕が住んでいる近所の施設に関して、例えば、トイレだったとして、「トイレの掃除をしてね」と言われたら、「何故こんな」と。前からある、便利だからそれはいいのかもしれないけれども、デザインも別に好きではないし、愛されているようなものでもないし。もし、これからつくるものというのであれば、デザインから、地域の人に愛されるようなものであれば、運営とかも快く引き受けてくれるのではないかなと思います。

【久部会長】

そういう意味でも、先ほど、私がお話ししたワークショップのようなもので、つくる時から一緒につくっていくというのが、管理にもつながるのかなとは思いますが、いかがでしょうか。

【溝端委員】

規制の問題などが出ていましたけれども、私のところの方でも、ちょっと人が集まって何かやろうかと言って、公民館なり、小学校については、堅苦しいのです。手続きが非常に煩雑で使いにくいということです。それに加えて、夜間に地区で集まった場合、缶ビール1本を出すのも制約されると。そういうことで、非常に使うのを嫌がりました。地元で、町会が運営する集会所がありますので、そこをフルに使っているのです。そこは、30人ぐらいの集会所で、お酒を飲んだり雑談をしたり、色々人のコミュニケーションの場として、非常に貴重な場になっているのですが、そこにはトイレももちろんありますし、それから炊事場も付いて、お酒の燗もするし、トイレも使った人がその日に掃除すると、こういうやり方をやっています。座布団にしても、女性の方が手づくりでつくってくれたり、非常に便利に使っているのです。だから、ああいう施設が各地区にあるのですが、もう少し、広さが少し、50人ぐらいはせめてほしいなという声も盛んに出るのですが、今後、そういう方面にも、何か力を入れていたら

いいのではないかと思うのですけれども。小学校にしる、やはり、教育委員会の許可があるとか、なかなかうるさいのです。

それと、魅力ある将来像ということですが、まちづくりについては、戦後、金剛団地から、南花台の方でマンションを、公団の住宅を建てて、水がないということで、掘ってやったのですけれども、これが出来て入るようになってから、僕の友達などでも、「河内長野は非常に環境がいい。空気もきれいやから」ということで、皆来たのです。僕が入った頃は、戦後なのですからね、会社に入ったのは、その時は、河内長野から2人しか会社に行っていなかったのですけれども、大阪市内の。最近では100人を越えているのです。それはもっと減っていくので、やはり、昔は環境のいい方へ来られたけれども、最近では便利さが、「ちょっと不便や」というような感じになってきて、住む人の考え方も変わってきたなというような気がするのですけれども。その辺はまあ、交通網にしる、道路網にしる、市自身では何とも出来ないような問題です。

その他はやはり、今は、僕自身も、河内長野というところには、非常に昔からいるのですけれども、「ええまちやな」という感じがしていますし。これからも、便利さはどうなのか、難しい問題ですが、その他の面についても、先ほど、公園の問題も出ましたけれども、そういう面も含めて1つ、魅力あるまちづくりをしていかなければいけないという気がするのですけれども。

それから、やはり、市民が何を望んでいるかということですが、やはり、安全安心のまちということで、その辺は最近、市の方も非常に力を入れてくれています、この前も少しお話ししたのですけれども、市民からも非常に、自治会で防犯運動をしようという機運も出てきていますので、その辺もちょっとこれから、さらに力を入れていただいて。やはり、先生の方で、ピラ配りなどはあまり効果がないというようなお話があったのですけれども、僕は、広報などは非常に大きな効果を持っていると思うのです。人の教育もそうですけれども、ただ1度だけのPRでは何もならないと。繰り返し繰り返し、やはり、やっていただいた方がいいのではないかと、そういう気がいたします。

#### 【久部会長】

私が、ピラ配りが効果がないと言ったのは、人に来ていただく時の効果であって、ニュースはかなりの割合で読んでくださっています。だから、ある方に情報を届けるという意味では、そういう広報とかニュースとかというのは、非常に効果が高いのです。

例えば、私などがまちづくりのお手伝いをしていても、多分、その会合に出てくださる方というのは1%ぐらいです。3,000人のまちであっても30人とか20人ですから。でも、毎回やった内容をニュースでまいていますと、何かある時にお話や立ち話をする時、「いつもニュースで見せていただいています」というような声は、やはり来るのです。だから、わざわざ行くところまではいかないけれど、やはり気になって、色々な情報には目を通したおられる方というのが、やはり、何割かおられて、だから、何層にもやっ

ていかなければならないということで、そういう意味では、先ほど、溝端さんがおっしゃったように、情報を提供するという意味でのニュースとか「だより」というのは、やはり、どんどん流していかなければいけない話かと思うのです。

【溝端委員】

結局、駅前で、防犯、防火などのチラシを配っても、後から、駅から苦情の電話が入って。

【久部会長】

どうですか。あまり効果はないのですよね。ああいうところで配っても。

【溝端委員】

そうですね。読んでくれないような気がしますね、この頃。

【久部会長】

話が少し脱線しますけれども、田中さんとか柳田さんは、多分、選挙前に色々なところで色々な広報をされるかと思うのですけれども、私の住んでいる茨木の市議会議員選挙が1月27日にあるのですけれども、駅で立って言われてもというのが、一市民として思いますね。もっと違う形で、色々とお付き合いをしていただくとか、ちょっとこれは、これからの話ですけれども、今は20代の方々でも、議員さんになって頑張りたいという方がやるのですけれども、私などからすると、ずっと茨木でもまちづくりをやってきて、全然お顔が見えてない方なのですよね。で、「市民参加のまちづくりを頑張ります」と言っているのだけれども、「では、お宅はどうでしたん、今まで。10年間、私達はまちづくりをやってきましたで」という話に、やはり、なってきます。それは議員さんの話だけではないのですけれども、広報の手段としては、色々な有効な手段をもっと考えていかなければダメなのではと思うのですけれども。

先ほどの溝端さんの方で、魅力的なまちづくりという話がありましたけれども、1個人として、例えば、この10年間で、もっとこういうところが充実してもらえれば、もっと暮らしやすくなるというのはありますでしょうか。

【溝端委員】

総体として、河内長野市というのは都市基盤整備が遅れていると思うのです。例えば、下水などでも、汚い水が流れていまして、部分的には下水道も完備されていますけれども。やはり、きれいだなという、まちの中でも花づくりとか、そういう方面に少し力を入れてほしいのですが。あまり、金のかかることは出来ないと思うのですが、基盤整備、



道路の整備とか、花づくりとか。

#### 【久部会長】

私がお付き合いしている中では、奈良の生駒市が、市民ぐるみの花づくりを非常に頑張っているって、数年前に、「花と緑のまちづくり」のモデル都市になったということもあって、駅前とか交差点のところに、見事に花が植わっているのです。それをほとんど、地域の方々が、ボランティアで植え替えをしてくださっているということで。

これは少しお金のかかることなのでなかなか難しいのですけれども、補助金をいただいて、花のまちづくりセンターというのをつくられて、そこで苗を育てておられるのですけれども、それもボランティアの方々が、ほとんどやっておられるのですけれども、何かそういう試みも、もっともっと、この10年間で、河内長野でも増やしていけばどうかなと思うのですけれども。

#### 【柳田委員】

それに関連して、結局今までは、行政が考え、行政がよかれと思ってしてきた流れが、僕はあると思うのです。今、言われるように、もっともっと、地域で、「あれをしたい」、「これをしたい」という声をどう吸い上げて、そして、行政がバックアップするという形をどうとるかということにかかって、これからの行政の役目だと思っているのです。しかし、まだ、残念ながら、行政が筋書きを書いて、行政がよかれと思って、行政がやる、これがまだパターン化を、まだまだしているくらいを実は感じるのです。

僕らでも、さっきの話で少し余談になりますけれども、昨日も、日東町で老人会がありまして、行ってきましたが、「柳田さん、あなた議員やろ。地元の道路であそこがギザギザになっているのを治さんかい」と、直すのが議員だと思っておられる方が、まだ沢山おられるという、僕らの問題でジレンマもあるのですけれども、そういう意味で、僕らは、河内長野全体がどうなのだという意味で、もっと、行政そのものが大きく。行政が、施策をね、情報をどんどん吸い上げる、聴きに行くという形を、本気にならなければ、まだまだ河内長野は変わらないのかなという思いがします。

あとは、地域の出来事を、地域で考えていただく集団をどうつくっていくのか。例えば、まちづくり委員会は、それぞれ、河内長野市が、総体が、僕が住んでいる日東町、あるいは、清見台、美加の台も含めて、それぞれ、細かく届かないと思うのです。従って、そこに、うちの日東町で悩んでいるのは、自治会が1年交代なのです。だから、今までしてきたことを、どう守って消化をしていくのかが、大体1年で、自治会の仕事であれば終わりなのです。老人会と建築協定委員会が、はっきり言って、まちをどうしたらいいかということについて、真剣に考えていただいていると。従って、そういう自治会とも、自治会も当然入らなければいけないのですけれども、ちょっとそういう委員会をつくり上げるバックアップを行政がしていただいて、2年、3年、5年、10年というス

パンで、自分達の小さなエリアのまちをどうつくりあげていくのかというのを、ちょっと本気になってしていくことが大事なかなという風な思いが少ししています。

#### 【久部会長】

実は昨日も、大阪府がやっておられる研究会で同じような話をしていたのですけれども、これから地域ぐるみで、市民主体のまちづくりを進めていく時に、そういう組織が、やはり小学校区単位ぐらいではいるだろうという話がありますけれども、ここでちょっと、皆さんにもご意見をお聞かせ願いたいのですけれども、例えば、河内長野でも今、全ての小学校区ではないのですけれども、連合町会がある地域が、いくつか、半分ぐらいありますよね。そうすると、先ほど、柳田さんがおっしゃった話しは、連合町会がやってもいい部分もあると思うのです。それから、全ての小学校区にあるのは、地区福祉委員会です。地区福祉委員会も同じように、色々なグループが集まって、皆で話し合っただけで地域の福祉面を良くしていこうという動きをやっていきます。他にもいっぱい、それぞれの組織が頑張っておられるのです。それを、もっともっと活性化していこうよという話をするのか、あるいは、先ほど、ご提案があったように、まちづくり委員会のような新たな組織をつくって、そこが、このまちの話をもっと積み上げていこうよという話をするのか、色々な形があると思うのです。その辺りは、河内長野とか、お一人おひとりの考え方として、どういうやり方が一番いいのだろうかということで、何か思いとかご意見とかがあれば、もう少し聞かせていただければ、多分、市役所もこれからそういう仕組みをつくっていく時の参考になるのかなと思うのですけれども。

一昨日の協働の懇談会の中でも、同じ話が出ていたのですけれども、ある連合町会長の方は、「連合町会をつくってもらって、もらわないというのは、やはり、自主性の問題なのだけれども、結局、半分は出来ていないということは、誰かがプッシュしてもらわないとあかんので、その辺りを、市役所からプッシュしてもらえないか」という話があったのですけれども、市役所は、なかなか、遠慮の部分があって。というのは、何かと言うと、少し話がそれますけれども、戦中に、市役所が地域組織を傘下に収めて戦争に誘導したというところがあって、直接それをタッチするのがいいのかどうかというところがあって、躊躇があるのです。その隣組制度みたいなものをGHQが解体してしまったというところがあって、なかなか、市役所と地域組織の関わり方というのが微妙なところがあって、なかなか、どこまで踏み込んでいったらいいのかなというのが、難しいところがあるのです。先ほどの、まちづくり委員会とか、新しい組織もそうなのですけれども、それは、市役所とどういう関係でつくっていけばいいのか。決して、柳田さんもそう思っていないのは、傘下の組織ではないのです。やはり、自主的につくった組織と市役所が、どうパイプをつくっていけばいいのかという話なのですけれども、その時、なかなか、どういうつくり方をしたらいいのかということ、いくつもつくり方があるので、その辺りの現状とか、思いみたいなものを聞かせていただければと思う

のですけれども。

どうですか、例えば、今、町会との関わりでも、なかなかうまくいけていないと思う、白木さんとか村上さんとか、横谷さんは、個人がいますよね、まず。地域のグループというのがあるのですよね。そこに皆が集まってきて、色々な話をして、自分達も何かをやっていったり、市役所と一緒にやっていったりする時に、地域の組織としては、今でも沢山あるのですけれども、そういうものがあるのか、あるいは、また新しい何かが生まれた方が、地域で自分達が参画しやすくなるのか。

#### 【白木委員】

もともとあるところに新しく入っていくのは、やはり入りにくいと思うのです。私が思うのは、「こういう意見」というものを決めないで、日々思っていることを、例えば、インターネットの掲示板みたいにかける場所があって、皆が見られるようなところがあって、意見を普段書いておいて、それを、ある、中心になる方が見て、「こういうことはいいな」と思った場合に、そういう意見が多いので、呼びかけをして、「こういう人、集まりませんか」といった感じの会であったら、そういう会があれば、私ももし、そういう意見を持っていれば、そういうところに行ってみようかなという風に思うのですけれども、もともと、ある会があって、自分もちょっと行ってみたいなと思っても、そこに知り合いがいなかったりという場合は、そこになかなか入っていくにくいと思うのですけれども。同じ意見を持つ人が集まるという場があれば、そして、自分も意見を言いたければ、そういう集まりに呼びかけがあれば、行ってみようかなと、自分もそういう風に思うと思います。

#### 【久部会長】

皆さんの賛同が得られれば、是非とも、この総合計画の柱にしてほしいなと思うのですけれども、八尾市で総合計画をつくらせてもらった時に、そういう場所を小学校区につくってこうよということが、総合計画の一番大きな柱にしたのです。八尾の場合には、「まちづくりラウンドテーブル」という名前を付けているのですけれども、月に1回、時間と場所だけを決めておいて、来られる人が来たらいいという場所をつくっているのです。それが、先ほど、村上さんのおっしゃった話ともつながるのですけれども。

今、八尾では2つの地域でそれが動いているのですけれども、なかなか面白いのです。皆がぶらっと来られる。その組織に入ろうと入るまいが関係ないのです。誰でも、その地域に関わる人であれば、ぶらっと来て、意見を言える場所をつくっているのです。そこにも当然、行政の職員さんが入っていて、行政がやらないといけない仕事は、そこから声を聞いていって、行政に反映させる仕組みをとっているのですけれども。もし、そういうのに賛同いただけるのであれば、この総合計画の中でも、そういう、小学校区ごとに、色々な意見を自由に言える場所をつくっていくという、そういう施策を、重要

なものとして書き込んでおけばどうかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

ただ、そこでもうちょっと、皆さんにご意見をお聞かせ願いたいのが、八尾の場合は29の小学校区があるのですが、3年間経って、2つなのです、出来ているのが。それは、「もっとつくらんかい」という話もあるのです。先ほどのお話にもあったように、市役所が号令をすると、29が一度に出来ます。でも、私の経験から言うと、それを市役所がやってしまうと、地元の方はどう思われるかという、「市役所に言われたからやったってるんや」という雰囲気になるのです。そして、1年経って、うまくいかない時に、「これをどう責任取ってくれるねん」と、これは市役所の責任にされてしまうのです。それがまずいので、手を挙げて下さったところで、「自分達がつくるよ」と言ってくださったところに、支援に入ろうという形にしているのです。ところが、29の中で、まだ2つか手が上がってこない。それには色々な事情があって、なかなか、制度としてつくっても、ずっと手が挙がってくるというのは難しいのです。

この辺りをどういう形で作っていったらいいのかということ、また、皆さんと一緒に考えていかなければいけないところなのですけれども、どうでしょうか、河内長野でもそういう、皆がぶらっと来て、気軽に集まれる場所というのを、市役所も一緒につくっていくというのはいかがでしょう。反対意見がなければ、それで提案をさせてもらっていいかなと思うのですけれども。

事務局サイドは何かそのような、助役さんで結構ですけれども、何か地域ごとに、そういう市民自治の仕組みというのを考える時期にさしかかっているのかなと思うのですけれども、何か庁内でそういう検討などはどうなのでしょう。

#### 【藤委員】

具体的な検討はまだされていなくて、過去にはあるのですが、15年前にスタートしたのですけれども、今は具体的にはやっていないのです。ただ、今の取り組みの中でしているのが、先ほど、ちょっと部長さんもおっしゃったのですが、小学校区の中で、そういうコミュニティセンターをつくっていいこうという展開まではあるのです。そこで、公民館が7つ、そこに、コミュニティセンターがもう4つありますから、だから、あとは、3つか4つぐらいなのです。ただ、それも、今のコミュニティセンターは、自治会組織の皆さんで運営してもらっているのですが、公民館はそうはなっていないのです。そして、自主的に、いつもどうぞという時には、コミュニティセンターにしなければいけないと思いますので。それから、公民館を何らかの形で変えていき、そして、あと3箇所ぐらいの施設を建設しなければならないかなと。ただ、建設するのが難しい時期なので、先ほど申し上げた、小学校の中に、もし、余裕教室が今後とも使えるのであれば、そこを1教室か2教室を改造してやっていいこうという、こういう考え方も始めています。

ただ、今、おっしゃったコミュニティと、ボランティアの問題がどうかという。これからは、やはり、協働というところにはコミュニティもあるのですけれども、ボラン

ティアというところも少し力を入れていかないと、自制が育たないのかなという思いで、そういう協働という定義を今、模索しているところなのです。どういう協働なのかなという、協働の持つ意味ですね。そこを、もう少し、河内長野市の協働の精神を持たないと、ちょっと、どちらにしても、ハードやソフトの展開がなかなか進んでいかないので、なという気がするのです。

#### 【久部会長】

私も、八尾も含めて、色々なところで交流の場所づくりをお手伝いしていて、やはり、市民側も変わらないといけないという部分がありまして、1つは、やはり、特に交流の場所づくりを始めた、最初の2、3回の集まりの時には必ず出てくる言葉なのですけれども、「ここは何を言ってもいい場所やろ」と。そして、「市役所に物を言いたい」という形で、出てこられる方がおられるわけです。それをやってしまうと、多分、市役所の方々もどんどん、また、敷居を高くしてしまうのです。「これ、言ったらやってくれるで」というような関係をつくってしまうと、これは市役所だけではなくて、地域のグループの方々にも、ちょっとしんどくなってくるのです。「これは自治会の問題やろ。お前らがやったらええのやないか」とか、「これは市役所の問題なんやから、市役所がやったらいいやろうが」というような言い方の方が増えてくると、せっかくの情報交換の場所の雰囲気が変わってきてしまうということがあって、そこをやはり、「そうじゃないんやで。皆が自由に言い合うけれども、皆で考えていって、解決の方向へもって行かないとあかん場所やで」というようなことを、皆が思い続けていかないと、なかなかうまくいかないのです。

それから、行政の中でも、八尾でもまだまだうまくいっていないのですけれども、例えば、地域の担当の方がおられて、その「ラウンドテーブル」というところで、色々聞いてきますよね。「この前の会合の時に、こういうことを言っていたで。それは道路課の問題だから、道路課はこういう形で対応したらどうですか」と言った時に、市役所の内部で、「何でお前、そんなややこしいことを聞いてくるんや」と、「また、仕事が増えるやないか」と、言われてくると、今度は御用聞きになっている人たちが大変になってくるのです。だから、やはり、そういうことで、皆が、出てきた話題に対して、積極的に前向きに考えていくような雰囲気づくりをしていかないと、先ほどの、せっかく出てくる話が、うまく取り上げられないのです。

多分、白木さんのお母さんも、また聞かせていただきたいのですけれども、言うだけで、「誰かにやってもらおうや」という意見だけでは、なかなかしんどいですよね。言う限りは、「私も何かやりますわ」というような言い方をどんどんしてくださると、非常にいいのだと思いますけれども。その辺りは、やはり、市民側の意識も変わっていかないとなかなか、せっかくうまくつくった場所とか、うまくつくった仕掛けが、うまく回っていかないのです。

#### 【柳田委員】

そういう意味でも、今、校区というレベルで議論、基本部分は僕はいいと思うのです。もう少し小さな単位で、例えば、何回も言いますけれども、うちの楠台のまちはどうしようかという、僕の知り合い、子ども会と一緒にやったメンバーとかと、よく話す。例えば、街路樹がないから、メイン通りに街路樹をつくろうか、そうすると近所の人たちが掃除をしてくれるかどうかという話が出来るのですが、例えば、清見台と日東町を比べると、世代が大分違いますし、どうしても、広くなると、なかなか意見を言いにくい。ところが、自分の住んでいるほんの小さなまちの、うちで 600 から 700 世帯の中ですと、割に、フリーに日頃思っていることも言えるし、夢も含めて出来ますので、そういう意味では一度、規模的にも、出来る限り、日ごろの思いが簡単に言える、そういう単位づくりの方がいいのではないかなと思いがちょっとしています。

#### 【久部会長】

私も今、試行錯誤で色々やっているのですけれども、小さければ小さいほど、お顔も見えるし、やりやすいのですけれども、一方で、小さいと、前向きに活動される方の数も、分母が小さくなるだけに少なくなります。だから、やはり、一定の規模はあった方がいいのかなというのもあって、でも、あまり大きくなり過ぎると、先ほどおっしゃったように、お顔が見えなくなるし、地域の状況も違ってくるので、一番適切な規模なのは、今は小学校区単位ぐらいかなと。自主的に集まってきてくださる単位は、いっぱいそういう場所があってもいいかと思うのですけれども、やはり、月に 1 回、必ずここに行ったら、誰かに会えるのだ、誰かに話を聞いてもらえるのだという場所は、小学校区単位ぐらいが一番適切ではないかなと思うのです。

もっと別の意味で言うと、河内長野は小学校区が 12 ありますね。12 ならば、市役所の職員さんも対応出来るのです。これが 100 にも 200 にもなってくると、誰がいちいち行って話の場に加わるのという、ますます大変になるのです。だから、そういう意味で、市役所の職員さんが必ず対応してくれるよという単位は小学校区にしておいて、更に小さい単位は、「自分達で自主的にやっていってくださいよ」というような、そういう 2 段階構えにしていけば、よりわかりやすくなるかなという気がするのです。そろそろ時間なのですが、芝本さんは何か。

#### 【芝本委員】

今、聞いていますと、自分が都合が悪い時にちゃんと言おうかということが多くですよ。だから、それは、市の方に言ったらいいのではないかなと。「資源がこうだからこうやろう」ではなくて、自分が都合悪いから、「こないしてもらえませんか」という、そういう意見がものすごく多いと思うのです。

【久部会長】

多分、今まで、市役所職員さんが地元に出て行くのをしり込みされるのは、そこなのです。「行ったら文句だけ言われる。だから行けへん方がいいんとちゃうか」という話になってくるのです。だから、木之下さんなどは、「そうやないで」という話だと思っただけでも、まだまだ、前向きに取り組んでくださる市民の方々が、数としては大きくないというところが、やはり、お互いの関係のところにも溝をつくってしまっているのかなと思うのです。

【芝本委員】

今、先生が言われたけれども、町会でも人数がいるけれども、入っていない人もいっぱいおられますよね、町会に。そういう人が何かあれば文句を言うのです。

【久部会長】

ちょっと話が脱線しますけれども、今、うちの大学院生が修士論文をまとめているのですけれども、彼はアンケートをとって、どれだけ前向きに生きているかどうかということ、数百人の市民の方にアンケートをとっているのですけれども、見事に二極分化しています。「自分達の問題は自分達で解決するんや」という人と、「いやいや、そんなん任せておいたらええやないか」という人と、やはり二極分化していて、それを何とか、皆が前向きに出来ることを積み重ねていけるようなことにしていけないと、なかなか、まちづくりという段階に行けないなということで考えているのですけれども。

一昨日も話が出て、「それは別に行政とか市民とか、あるいは、市民グループとかと違う、皆、どこでも同じ問題を抱えているで。頑張る人は前向きにやるんやけども、そうでない人は、単に、他人に任せておけばいいというようなことがあって、その人たちにかき回されてしまって、前にいかへんで」と。自治会でも家でも、どのようなグループでも行政でも一緒ではないかと思うのですけれども。

あと、いかがでしょう。

【田中（晃）副部会長】

もう、時間がありませんので、少しだけ、交流の場づくりということで、14 小学校区での対応ということなのですから、例えば、そういう風にした場合の行政の体制としては、あるのかどうか、また組み替えないといけないのかということも、また次回、少し話が出来たらなど。行政側の受け皿はどうなのかという疑問の部分があるのですけれども。

【溝端委員】

ちょっと、僕、言いたいのですけれども、小学校区 1 本でまとめたら、よそはどうかわかりませんが、私の、高向地区というのですけれど、ここでは各自治会があって、それぞれの気風が違うのですよ。まとめたら、まとまりにくい面が非常に多いのです。それが、例えば、高向地区、日野地区と分けた方が、まとまりやすいという経験がありますので。何故かわかりませんが、昔の気風が残っているのか、全体としては、色々な反対の意見が出たり、まとまりにくいので、出来れば、町会の連合会単位で分けていただいた方がいいと思うのです。高向小学校区でも、旭ヶ丘地区は 500 ぐらいあるのですけれども、ここもまた、それぞれのあれでやっておられるし、高向地区とちょっと意見の違うところもありまして、まとめるとしたら、やはり、そういう分け方をした方がいいと思うのです。

#### 【久部会長】

実は、そこがもう 1 つのポイントで、まとまる単位でまとまった方がいいのか、あるいは、意見が違うことを乗り越えて 1 つにしないと問題が解決しない部分もありまして、だから、そこら辺が、しんどいけれども、ちょっと意見が違うけれども、1 つにしておいた方がいいのか、両方メリット、デメリットがあるのです。その辺りはどうですかね。

#### 【溝端委員】

やり方にもよりますけれども、やはり、時間がかかるでしょうな。大きな単位だったら。

#### 【田中（喜）委員】

大きなまとまりは、やはり 1 つにして、あとの細かい部分は、そういう風な、やはり、単位でやってもらうという、やはり趣味の部分でも一緒だと思うのです。自分達と同じような趣味のことであつたら、集まって、何をしても、話題がわっと盛り上がってしまうけれども、やはり、違う趣味のところに入ってくると、なかなか意見を言わない方も多いし、また、あまり興味を持ちませんからやらないというようなことで、全体として公平にしましょうということは、大きくやっていかなければ、個々にやっていくという、そういう体制づくりでもいいのかと思います。

#### 【藤委員】

くくりなのですけれども、町会費というものを取っているのは、非常に狭い単位のまちだと思うのです。今、話をしているのは、その小学校区の中で、どのような行政がいいですかと。道づくり、公園づくり、もしくは、そういう集会所づくり、そういう行政との関わりについては、やはり、小学校区単位でまとめやすいのではないかなと。ただ、生活、要するに、冠婚葬祭等のお付き合い、近所付き合いというのは、もう少し、やは



り、狭いくくりの中での関わりになってくるのではないかと。そこまで、他の地域に入り込むというのは、これはちょっと、溝端さんがおっしゃったように、色々と問題がありますよと。今までの生活範囲とは少し違いますから。そこはそれで置いておいて、そして、これからのまちづくりについては、小学校区単位で進めてみてはどうかと。

ただ1つ、私、聞きたいことがありますて、出来ればご意見があればと思うのですが、今は、いい話なのですよね。「いいことをつくりましょう。そのためにどうしますか」。実は、行政には、「悪いもの」もあるのです。し尿処理場をどうしますか、ごみの施設をどうしますか、火葬場をどうしますか、そんなこともありますて、これがここで言う、協働のまちづくりに合うのか合わないのか、例外的な扱いになってくるのかどうかということを、少し気にはしているのです。

それと、くくりをしてしまうと、我々も言っているのですけれども、1つの地域の方にお願いしに行ったと。ところが、自治会組織としては、この広い範囲の方が皆、「うん」と言わなければダメと、そうなってくると、利害関係が非常に違うのです。その施設が建つ、近くの方の会と、離れてしまって関係ないところとの話が出来ののかなと。そういう風な場合で、いいものと、「いやな施設」ですね、それとが、この、「いや」な方は、この協働のまちづくりに合ってくるのかという、ちょっとその辺りが。

#### 【久部会長】

この地域はかつて、“ごみ戦争”がありましたよね。私も、それは記憶に残っていますけれども、収集車を入れないという。同じような話が、東京の大田区と世田谷区でありまして、今、世田谷で、砧というところに清掃工場をつくったのですけれども、その時に、世田谷の近所の方々が大反対したのです。今までは、世田谷と大田が共同で焼却場を持ってまして、その時に、世田谷で、世田谷区民のための清掃工場をつくりたいという時に、世田谷の一部の区民さんが反対したのです。その時に、大田区でも全く同じことが起こって、「お前らが勝手なこと言うな」「大田区民はどうしてるんや」ということで、一時期、世田谷区役所の清掃車を大田区に入れなかったという時期があったのです。そういう問題が、今、藤さんがおっしゃった話だと思うのです。自分のところから出たものを処理してもらうのだけれども、それが、一部の地域の方々に迷惑を掛けてしまうという時に、本当にその辺りで協働が進められるのだろうかという話なのですけれども、ここはどうでしょう。ちょっとご意見をいただきたいのですが。

だから、それは、道路を広げる時もそうです。自分の家の前の道路は広がってほしいけれども、2つ向こうぐらいの道路は広がってほしいという話も全く同じで、「自分の地域は守っておきたい。でも、他の地域やったらいいよ」というような話なのですけれども。

どうでしょう。なかなか難しい問題を提起しているのですけれども。

私の経験から言うと、私は、それも話し合いで乗り越えていくべきであると思うし、

いくつかは乗り越えてきました。その時に、やはり、市役所とかは、お互い利害がぶつかり合う方々が、直接話し合う場所をつくっていくというのが、市役所の仕事だろうと思うのです。今まで、例えば、清掃工場をつくる時も、市役所が全部、矢面に立っているわけです。その清掃工場が出来るところの住民さんに説得に行くわけです。ところが、本当は、清掃工場を使う市民が皆で集まって、話をしないとダメだと思うのです。どこかに施設はあるわけですから。それで迷惑を被っていらっしゃる方の声も聞きながら、そうしたら、周りの市民は何が出来るとかということ、一緒に考えていくことで、違う話の展開になるのかなと思うので。

例えば、私が、今まで一番大変であった仕事は、つい最近までやっていたのですけれども、滋賀県の北部に丹生ダムというダムがあるのですけれども、今、このご時世で、「ダムはいやや」という動きがあって、淀川流域委員会というところも、新しいダムの建設は原則として、しないという方針まで出して、丹生ダムをもう一度見直せということで話がありまして、私がその対話討論会というところの面倒を見てきたのですけれども、最初は賛成派と反対派が激論しました。全然話にならない状態であったのですけれども、2年間やってきて、結論は出ませんね、やはり。地元の方は、早くダムをつくっていただいて、水害から救ってもらいたいと思っているわけです。ところが、例えば、大阪とかから見ると、自然が豊かなところだから、自然環境を残せという意見もあるのです。8回、徹底的に議論をしましたけれども、結局は、その場所では、なかなか、「どうしましょう」という合意までは至らなかったのですけれども、私が印象的であったのが、8回目の最後の会合が終わった時に、今まで面と向かって、「賛成や」、「反対や」と言ってこられた人なのだけれども、最後に皆さんが帰られる時に、お互いに、「お疲れ様でした」ということで帰られたのです。そういう関係が出来たということ、私は、非常に良かったなと思うし、最終的に、多分それは事業主体である国土交通省が最終的に判断をせざるを得ない状況になってきたのですけれども、多分、その時に、「つくる」と言ったら、反対派の人々には不満の残る決着になるし、逆であれば、逆の結論なのだけれども、2年間徹底的に議論した結果で判断をされた時に、満足はしませんけれども、「しゃあないな」ということにまでいけるレベルで終わったのかなと思うのです。そういう場所をどんどんつくっていかねばいけなし、先ほど言ったお話にもあったように、もめまずし時間もかかります。でも、それをやっていかねばいけなし時期にさしかかっているのかなと思うのですけれども。

#### 【木之下委員】

今のお話であれなのだけれども、そして、ごみのことも出たのであれだけれども、やはり、ごみ問題で「戦争」とか言っているけれども、皆さんが記憶にあるかどうかというのはわからないのですけれども、その時に、やはり、市民として何が出来るとかいうことを、私もちょっと集会を開いて、でも、その時に、100人以上の方に集まっていた

だいて、今の市長とかにも、議員の時に来ていただいて、お話を聞いていただいて、それぞれ、色々な意見を言って帰って、それを議事録として送ったということがあるのですけれども、やはり、そうすることによって、今度、ごみの減量とかを言った時に、やはり、「何かをしないといけない」という気付きというのは、それぞれの市民の人たちがその時にして、それによって、色々な意味で、河内長野市としても色々な対応は大変だったと思うのですけれども、やはり、そういうようなことをやることによって、後でお会いして、地元の方々とも接した時も、やはり、「色々なことがあったけれども、やはり、ああいう風にして動いてくれたことで、自分達が大変と、自分達だけの問題であると思っていたことを、皆にわかってもらえてすごく良かった」ということを、何年か後におっしゃっていただいたので、今、久先生がおっしゃったように、そういう風なことが今、大事なのかなと。すごく時間がかかることを、今、ここでやらないと、出来ないのではないかなと思うのです。特に私もそうなのですけれども、日本人は、会話をしたり、色々な話し合いで何かを決めていくということが、とても苦手だと言われているし、子どもたちの教育にもつながると思うのですけれども、やはり、そういうような、子どもも含めた討論会やディスカッション、そういう場が出来れば、子どもも入れてもいいのではないかと、色々な動きというのを、どこか出来るところからやっていけたらなと思っています。ちょっと、私も、地元でそれが出来るかどうかは、ちょっと悩んでいるのですけれども。

#### 【久部会長】

そうですね。私はどのようなややこしい問題でも、やはり、木之下さんがおっしゃったように、話し合いでやっていかなければいけない時期に来ているし、それが本来であると思うのです。私などは、ずっとこういうお仕事をさせてもらって、民主主義の世の中とは言えけれども、市民レベルでも民主的に物事が決まるということはほとんどないので、今まで。立場の違う方が集まって、徹底的に議論をして、最後に答えを出してきたという経験は、極めて少ないのです。小学校の時とか、中学校の時も、ホームルームとか学級会があったけれども、あれも何か、徹底的に議論をして、自分達で答えを出してきたという経験が極めて少ないのです。もう一度、基本に戻ろうよという、そのようなことかなと思っています。

それと、ちょっと時間も長くなっていますけれども、最初から難しい問題はしんどいです、私もやらせてもらって。だから、最初は、案外ずっと答えが出る問題で、でも、ちょっともめ事が残るような問題から、そういうトレーニングと言ったらいいのでしょうか、そういうことを始めていくということが重要だなと思っています。

私の分野で言うと、一番取り組みやすいのは、実は、公園のワークショップなのです。公園というのは自分の土地ではありませんよね。だから、案外、無理難題を言っても、利害関係者というのは少ないのです。だから、公園でそういう積み重ねをやってくと、

今度、自分の利害が関わるところで話をしても、1回トレーニングを積んでいると、言い方が変わってきたり、あるいは、やりやすくなって。それと、別のテーマで言うと、私は、子どもの問題だと思うのです。子どもの問題に対して、前向きでない方はいないと思うのです。だから、そういう意味では、「子どもにどういう環境を残せるか」とか、「今の子ども達に何が出来るか」みたいなところを、地域ぐるみで話し合ってもらおうと、案外、前に行けると思うのです。そういう、ちょっとした利害対立とか意見対立があるけれども、全体的な方向は1つかなという問題から議論を始めて、それで、だんだん難しい問題というか、応用問題に入っていくというのが、プロセスとしてもいいのかなと思いますけれども。

いかがでしょう、他に。時間も回っていますけれども、せっかくの機会ですので、何かございましたら。大体よろしゅうございますか。

それでは、どうもありがとうございました。それでは、冒頭でも申しあげましたように、今日の話も踏まえて、次回までに、事務局の方で、皆さんにお渡しした基本構想の内容を修正をし、あるいは、事務局と作成をしていきたいと思っております。次回、そういう意味では、皆さんのご意見も踏まえた修正案が出てまいりますので、それでいいというのか、あるいは、もう少し修正を加えてくださいというのかということ、次回の部会の中でお話をさせていただきたいなと思います。

また、これは後から、事務局の方で、具体的な日時のお話をさせていただきたいなと思いますけれども、私がお聞きしているところで言うと、たまたまなのですけれども、次回の日程は、3部会で重ね合わせることが出来そうだということで、そういう意味では、全体の説明をさせていただいて、後は部会ごとに分かれて、議論を進めるということになると、事務局の方からはお伺いしております。

それでは、次回の日程に関しまして、事務局のほうからご説明をよろしく願いいたします。

#### 【事務局】

今、部会長がおっしゃいましたように、第4回部会の日程につきましては、月末の1月30日午前10時ということで、ご案内をさせていただきます。これは、他の2部会の日程が、1月30日の午前中に開催ということになったというのもございますし、全体の中で、私どもが説明をさせていただきたいという部分がございますが、1月30日の午前10時ということでさせていただきたいと思います。

全体の中で、皆様方の色々いただきましたご意見を反映させていただいた形で、基本構想骨子(案)の資料説明を行いたいという風に考えております。その後、多分、30分ぐらいかと思っておりますけれども、その後また、各部会で分かれていただきまして、ご審議いただきたいという風に思っております。以上でございます。

**【久部会長】**

ありがとうございました。何か、ご説明に関しまして、ご意見ございますでしょうか。ちょっと、日程の方も、他の2部会が、たまたま1月30日であったということで、実は、私も先約が入っていたのですけれども、向こうに無理を言いまして、1月30日を空けましたので、ちょっと今、ご都合の悪い方もおられるようすけれども、ご了承いただきたいと思います。

それでは、他に意見もないようでしたら、今日はこれで終わりたいと思います。それではどうも、長時間にわたりまして、少し時間も伸びましたけれども、ご協力ありがとうございました。